

この国は原発輸出に血道を上げ、福島は切り捨てる。

「日立の原発輸出を許さない！」7.11~18
福島県農民連がイギリス・ウェールズ行動

美しき島 アングルシーに国全面支援で 日立が原発建設。



日立が建設中の
ウィルファ原子力発電所

七月十一日から十八日、福島県農民連根本敬会長、浪江町馬場績議員、ジャーナリストの藍原寛子さんが「日立の原発輸出を許さないウェールズ行動」を行った。五月末にウェールズから三人の方々が福島市に來られ、その時にウェールズに來てほしいということがきっかけで今回の行動が組まれた。

アングルシー島は、ウェールズ北西岸に接する島。ウェールズ語を話す人口が優る。短期滞在にしる観光にしろ、多くは良質の砂浜と海岸線の光景を満喫している。この美しい島の老朽化した原発のすぐ隣りに、ホライズン（日立が買収した原発企業）が新しい原子力発電所建設を目論んでいる。島は過疎化が進んでおり、アルミ工場も半ば閉鎖状態のため、住民の多く（六〇%から七〇%）は原子力発電所を歓迎していとされる。

※先月アメリカの原発建設企業がこの事業からの撤退を表明し、日立は窮地に追い込まれている。

安全も採算も度外視で突き進む原発。 ツケはすべて子や孫世代へ

「危険な人たち」

私たちが招いた地元の反核団体が行おうとした「共同記者会見」の会場が急遽変更になった。理由は当初予定していたホテルに「福島から危険な人たちが来る」という電話が入り、警備ができないとの理由で断られたとのこと。地元紙デイリー・ポストが翌日、私たちの記者会見を報道した。

その見出しは、「この原発は、原発事故が起きても放射性物質を飛散させる危険を冒してはならない。」(Don't risk fallout from nuclear disaster here) しかし、最後にコメントするのはホライズンの役員。

「highest safety standards」まさに安全神話。デイリー・ポストは、五月に「都市から遠く離れた島の産業といえは、観光と農業くらい。島唯一の工業のアルミ工場も半ば閉鎖状態で、若者たちには仕事がない。新原発は雇用を生むだけでなく、新たな税金にもつながる」という記事を書いている。

2000年代半ばに百万キロワット級原発一基の建設費用は五千億円といわれた。だが、2001年の米同時多発テロや2011年の福島第一原発事故を受けて強化される安全規制への対応に費用はうなぎ上り。最近では一基一兆円でも足りない状況だ。必要な金額は資本と負債（融資）で調達する。だが、原発は着工から運転開始まで早くても五年、トラブルがあると十年超えも珍しくない。この間も金利はかさんでいく。プロジェクト費用が膨らめば、回収までの期間も長期化する。当初一兆円台半ばといわれていたホライズンの総事業費



国家的支援がなければもはや原発は稼働できない。三兆円超に膨らんだとされる。もはや採算はとれない。結局国の支援が不可欠で、ツケはすべて国民が背負うことになる。被災地福島はさらに切り捨てられる。

ドイツ倫理委員会が示す 未来・次世代への責任と今を生きる我々の選択

「原発のリスクは、実際に起こった事故の経験から導き出すことはできない。なぜなら原子力事故は、それが最悪のケースの場合にどんな結果になるか未知であり、また、評価がもはやできないからだ。その結果は、空間的にも時間的にも社会的にも限界づけることができない。ここから当然の帰結として、被害事例を除去するため原子力技術をもはや使用すべきではない。」

農民連フラッシュ flash

原水爆禁止世界大会に参加して

原水爆禁止世界大会で多くのことを考えさせられたと初参加の「ゆいまある」の若者から感想が寄せられました。熱意ある参加者との交流、原爆資料館、碑めぐり、ドキュメンタリー映画、世界各国の報告などを通じ、自分には全く関係ないことと思っていた政治の事、核と人間は共存できないこと、世界の平和についてなど少しずつ意識していきたいと結びました。



農民連全国研究交流集会'18

7月31日・8月1日の2日間にかけて、群馬県安中市で2018年農民連全国研究交流集会が開かれました。1日目の全体会では、記念講演、全国の参加者からの活動報告が行われ、夜からは懇親会が開かれました。2日目には5つの分科会が行われ、各会で熱心な討論がされたと全体会で報告されました。



NOTE

青年部の活動、地元の農や食のことをリレーで紹介！

若き農業者のつふやきの一と せいねんぶ農人

夏恒例、全国青年部学習交流会。今年は埼玉県加須市で、米づくりに挑むふたりの若者の話を聞き、交流した。「農業への貢献は応援ではなく、作り手になること」、「子ども達が「農業をやりたい」と思える活動がしたい」とそれぞれの思いは熱かった。 by岩淵

